

校長 田村 嘉則

桜の花びらが散り始め、若葉の緑が鮮やかに輝きはじめようとしている、本日ここに、令和2年度春日部市立飯沼中学校入学式を挙行できますことは、本校職員の喜びとするところであります。

本日、飯沼中学校に入学する、121名の生徒のみなさん、おめでとうございます。いま皆さんが、とても凛々しく見えるのは、制服に身を包んでいるからではなく、中学校生活への期待とやる気が充ち満ちているからだと感じます。その溢れるばかりの期待とやる気の中に、少しの不安を感じている生徒もいることでしょう。これまで、小学校では、担任の先生を中心に学習に取り組んできましたが、中学校では、教科担当制になります。新しい教科との出会いや部活動など、多くの環境の変化に戸惑うこともあるかもしれません。しかし、安心してください。私たち飯沼中学校の先生方がいつも君達生徒諸君のそばにいます。また、2年生、3年生の先輩方もついていきます。何か困ったことがあったら、いつでも声をかけてください。新入生の皆さんの中学校生活をみんなで応援します。

中学校での3年間は、9年間ある義務教育のしめくくりの3年間であり、中学校を卒業した後は、上級学校へ進む人、働きながら学ぶ人など、それぞれ生きる道が異なってきます。3年後に皆さんが、中学校を卒業していくとき、豊かな知恵を有し、社会の一員として自分の責任を確実に果たして生活することができる、「生きる力」を備えた、望ましい人格を完成させることが、中学校の務めであると考えます。

そこで、皆さんの入学に際し、本校教職員を代表し、3つの事をお話します。

1つ目は、あなたたちはこれまで、家族の皆さんはもちろん、幼稚園、保育園、小学校の先生方や、地域の皆さんに愛され、育てていただいた、大切な存在であることを、今日ここで、もう一度自覚してください。

そして、かけがえのない自分を大切にしながら、毎日の学校生活を、気持ちを前向きに、積極的に送ってください。

このような気持ちを育むには、毎日の学習活動で、分かる喜びや出来る自信を感じることで、また、困っている友だちを助けてあげたり、家での手伝いやボランティア活動に積極的に参加したりするなど、周りの人から、感謝されたり、認められたり、必要とされるなどの体験を多く積み重ねることが大切です。このような体験を重ねることで、自分の大切さとともに、他の人の大切さを認めることができるようになり、全

ての友だちの人権が尊重される望ましい集団づくりにつながっていきます。

2つめは、自分は必ず伸びる存在であることを信じてください。学習や運動の伸びには、個人差はあっても、人は必ず成長します。時には、どうしていいかわからないような状況になったり、何をやってもうまくいかないような気がしたりする時があるかもしれません。しかし、自分自身の成長を信じ、周りの多くの人たちの助けを受けながら、あきらめずに色々な事に取り組んでください。困難は必ずや人を成長させ、その困難を克服して、人は一層成長します。自分自身の成長を信じて毎日の学校生活に取り組んでください。

3つめは、生徒諸君の明るく元気なあいさつやボランティア活動などを通して、地域を明るく元気にしてください。学校の使命は、皆さんの健全な成長を支援していくことはもちろんですが、新しい時代の学校の使命は、それだけでなく、皆さんのがんばりで、地域を明るく元気にするということを忘れてはならないと考えています。生徒諸君の周りには、「子どもは地域の宝」という理念のもと、登下校の見守りや学習活動、体験活動への応援など、何を置いても最優先に君達を支援していただける温かい地域の皆さんがいます。私達は、常に感謝の気持ちを忘れることなく、地域貢献していく必要があると考えています。皆さんが、地域に対してできることは何でしょうか、地域の方々への明るく元気なあいさつ、地域の清掃活動への参加など、常に中学生の自分達ができることは何かを意識して中学校生活を送ってください。

最後になりましたが、新入生の保護者の皆様、本日はお子様のご入学おめでとうございます。本校職員を代表して、心よりお祝い申し上げます。本日より大切なお子様をお預かりいたします。お子様が3年後、それぞれの夢におかかって元気に本校を旅立てるよう、教職員一同、誠心誠意取り組んでいく覚悟です。本校の教育実践に、温かいご理解とご協力をいただきますよう、何卒よろしく願いいたします。

新型コロナウイルスへの対応に伴い、本日はこの様な形での入学式となりましたが、本来であれば、ご臨席いただいております地域の皆様にも、本校へのご支援をいただきますよう、併せてお願い申し上げます。

本日から121名の1年生を迎え、全校生徒347名で、これまでの輝かしい歴史と伝統に加え、新しい校風作りに、一人ひとりが主役となって、充実した中学校生活を送ってくれることを願い、式辞といたします。